

# 保険・年金 フォーカス

## オランダの保険監督と販売動向

わが国にはじめて保険の概念をもたらした国の保険事情

保険研究部 上席研究員 小林 雅史  
(03)3512-1776 masashik@nli-research.co.jp

### 1—はじめに

オランダは、面積4万1864平方キロメートル（世界第131位、九州とほぼ同じ）、人口は1679万人（世界第62位）、平均寿命は男性79歳（世界第15位）、女性83歳（世界第22位）、GNPは8000億ドル（世界第18位）の、風車とチューリップで知られた国である。

正式名称の *Nederland*（ネーデルランド、「低地」の意。オランダは州名であるホラントに由来）のとおり、ゾイデル海などの干拓（風車による海水の汲み出し）による干拓地が国土の2割以上を占め、そのほとんどが海面下となっている。

1581年にスペインから独立した後、積極的に海外進出を行い、鎖国時代に日本と通交したヨーロッパで唯一の国でもある。

質実で率直なビジネス文化を有する一方で、個人を尊重する寛容な社会でもあり、2002年4月に施行された「安楽死法」により、世界ではじめて安楽死を明文の規定で合法化した<sup>1</sup>。

さて、現在オランダの生保会社は日本でも営業をしている。

まず、オランダの生保会社であるナショナル・ネーデルランデン生命<sup>2</sup>は、ヨーロッパの生保会社としては初めて、1986年4月から日本で営業を開始している<sup>3</sup>。

さらに、ソニー生命とオランダの生保会社エイゴン生命を母体とするエイゴングループは、合弁会社としてソニーライフ・エイゴン生命を設立し、2009年12月に営業を開始している<sup>4</sup>。

本レポートでは、日本とのゆかりも深いオランダの保険監督制度と販売動向について報告したい。

<sup>1</sup> 土本武司「安楽死の合法化に向けて—オランダの安楽死をベースに—」『東京財団研究報告書 2004・3』、東京財団、2004年7月、恩田裕之「安楽死と末期医療」『調査と時報』第472号、国立国会図書館、2005年3月。

<sup>2</sup> 現在のアイエヌジー生命。ナショナル・ネーデルランデン生命とNMBポストバンクの合併により誕生したING（インターナショナル・ネーデルランデン・グループ）の一員。2015年4月よりエヌエヌ生命に商号変更。

<sup>3</sup> 「外社参入 ネーデルランデン営業を開始 欧州から初進出、夫婦年金等7種発売 昭和シェル系特約店中心に販路拡大めざす」『インシュアランス』第3217号、1986年4月。

<sup>4</sup> 「ソニーライフ・エイゴン生命 変額個人年金 ウイニングロード・ヴィクトリーラン ソニー生命のライフプランナーで発売」『インシュアランス』第4361号、2010年1月。

## 2—保険監督

オランダにおける保険業は、2007年1月1日施行の金融監督法（Wet op het financieel toezicht、Wft）にもとづき、オランダ銀行（De Nederlandsche Bank、DNB）およびオランダ金融市場庁（Autoriteit. Financiële Markten、AFM）が監督を行なっている。

前者が保険会社の資産面などの健全性を監督し、後者が保険会社の業務面などの行為規制を実施している。

生保会社、損保会社などとしての営業は、オランダ銀行により発行された免許が必要である<sup>5</sup>。

金融監督法は、それまでの銀行監督法（Wet toezicht kredietwezen）、保険会社監督法（Wet toezicht verzekeringsbedrijf）などが統合された法律である。

金融監督法により、オランダ銀行が生保会社などの財務の健全性を監督しており、保険会社破綻の際の、契約者の不利益を最小限にする予防措置として、再保険や財務内容の検証を行なっている<sup>6</sup>。

万一、保険会社のソルベンシーマージン比率（保険金の支払能力の充実の状況を示す比率）が不足した場合は、オランダ銀行が、財務省およびオランダ保険協会（Verbond van Verzekeraars、日本における生命保険協会および損害保険協会に相当）と協力して救済計画を策定し、各保険会社からの臨時の拠出金により当該保険会社への融資が劣後ローンとして実行される仕組みである<sup>7</sup>。

日本での事前積み立てを中心とした保険会社破綻時の対応<sup>8</sup>とは異なる方式となっている。

## 3—販売動向

オランダ保険協会資料「オランダの保険概況」により、販売動向を見ていきたい。

2013年度のオランダの保険会社は生保会社40社、損保会社149社など、合計217社である。

保険会社全体の収入保険料755億ユーロ（1ユーロ＝約130円）のうち、生保183億ユーロ（24.3%）、損保121億ユーロ（16.0%）、健康保険451億ユーロ（59.7%）<sup>9</sup>と、健康保険の占める割合が大きい。

これは、オランダの健康保険制度（日本と同様、国民皆保険）の保険者が民間健康保険会社であり、民間が運営を担っていることによるものと考えられる（なお、加入する民間健康保険会社も被保険者自身が選択できる）<sup>10</sup>。

<sup>5</sup> 「金融監督法」（Wet op het financieel toezicht、Wft）2-27条、Overheid.nl（オランダ政府のホームページで、オランダに関する諸情報や、法律・規則などを網羅して掲載）ホームページ。

<sup>6</sup> 「生命保険会社のための救済制度」（Opvangregeling voor levensverzekeraars）、オランダ保険協会ホームページ。

<sup>7</sup> 「金融監督法第3章第149条にもとづく生命保険会社のための救済制度」〔Opvangregeling voor levensverzekeraars（artikel 3:149 e.v. Wft）〕、オランダ保険協会ホームページ。

<sup>8</sup> 保険契約者保護機構による保険会社拠出負担金の事前積み立てと、破綻時の資金援助、破綻時の責任準備金の補償（原則90%まで）。

<sup>9</sup> 「オランダの保険概況 2014」（Verzekerd van Cijfers 2014）、オランダ保険協会ホームページ。

<sup>10</sup> 大森正博「オランダにおける医療と介護の機能分担と連携」『海外社会保障研究』第156号、国立社会保障・人口問題研究所、2006年9月、佐藤主光「医療保険制度改革と管理競争：オランダの経験に学ぶ」『会計検査研究』No.36、会計検査院、2007年9月、矢田晴那、大野太郎「第3章 オランダの医療制度」『医療制度の国際比較』報告書、財務総合政策研究所、2010年6月、小林篤「オランダの民間健康保険市場と民間健康保険事業—公的健康保険制度の担い手としての民間保険の役割と実態」『損保ジャパン総研レポート』Vol.63、損保ジャパン総合研究所、2013年9月。

2013年度収入保険料で、生保トップはエイゴン生命（33億8806万ユーロ）、第2位はナショナル・ネーデルランデン生命（32億4530万ユーロ）<sup>11</sup>で、前述の通り、ともに日本に進出している。

年齢別の保険加入率については、家財総合保険の加入率が全年齢で9割を超え、もっとも普及しており、ついで火災保険が全年齢で6割近く、35～49歳・50～64歳では6割を超えている。

住宅ローン保険（住宅ローン中の死亡リスクおよび住宅ローンの返済延滞などの信用リスクを担保する保険）や年金保険はそれぞれ約3割、約2割の加入率となっている。

（表1）オランダにおける年齢別保険加入率

%

	36歳未満	35～49歳	50～64歳	65歳以上	全体
家財総合保険	92.6	96.5	97.5	98.4	96.5
火災保険	43.1	62.7	64.0	49.1	56.4
住宅ローン保険	36.3	50.0	37.7	4.6	33.5
年金保険	8.2	32.1	32.7	7.2	22.2

[出典：オランダの保険概況 2014 (Verzekerd van Cijfers 2013) により筆者作成 (2012年度数値)]

つぎに、世帯収入別保険加入率を見ると、家財総合保険は世帯収入によらずほぼ9割となっている。

これに対し、火災保険、住宅ローン信用保険および年金保険については、世帯収入が低い層の加入率が極めて低く、世帯収入が高い層の加入率が高くなっている。

（表2）オランダにおける世帯収入別保険加入率

ユーロ、%

	～1000	～1500	～2000	～2500	～3000	3000～	全体
家財総合保険	89.7	95.7	96.5	96.9	96.1	98.6	96.5
火災保険	20.1	28.6	45.9	54.0	65.7	81.5	56.4
住宅ローン保険	4.7	11.8	22.4	31.9	41.1	54.6	33.5
年金保険	7.5	13.7	17.4	20.2	30.1	29.9	22.2

[出典：(表1)と同じ]

さらに、世帯種類別保険加入率を見ると、家財総合保険では、単身世帯（世帯主年齢35歳未満）を除き、世帯種類によらず加入率はほぼ同様となっている。

一方、火災保険や住宅ローン保険では、家族世帯（18歳未満の子供あり）の加入率が他の世帯に比べ、突出して高くなっている。

年金保険でも、家族世帯（18歳未満の子供あり）の加入率が高いが、差はそれほど大きくない。

<sup>11</sup> 「生命保険会社の損益計算書（2013年12月31日現在）」(Vennootschappelijke winst- en verliesrekening per 31 december 2013 van de levensverzekeraars)、オランダ銀行ホームページ。

単身世帯（世帯主年齢 35 歳未満）では、住宅ローン保険を除き、保険加入率が最低となっており、若年層の保険離れというわが国同様の状況がうかがえる。

(表 7) オランダにおける世帯種類別保険加入率

%

	単身世帯 (世帯主年齢 35 歳未満)	単身世帯 (世帯主年齢 35 歳以上)	家族世帯 (18 歳未満の子供あり)	家族世帯 (18 歳未満の子供なし、世帯主年齢 35 歳未満)	家族世帯 (18 歳未満の子供なし、世帯主年齢 35 歳以上)	全体
家財総合保険	88.3	96.9	96.7	94.2	98.5	96.5
火災保険	21.3	40.9	71.2	48.0	66.7	56.4
住宅ローン保険	21.8	15.6	57.0	39.8	30.7	33.5
年金保険	7,2	17.0	29,9	6,2	26,0	22,2

[出典：(表 1) と同じ]

#### 4—おわりに

わが国にはじめて保険制度を紹介したのは、福沢諭吉『西洋旅案内』（1867 年）である。

同書では、「災難請合の事 イシュアランス」として、「人の生涯を請負ふ事」（生命保険や年金）、「火災請合」（火災保険）、「海上請合」（海上保険）が詳細に紹介されている<sup>12</sup>。

一方、これより古く 1816 年に編纂された日本で最初のオランダ語の辞典のひとつである「ドゥーフ・ハルマ」（道訳法児馬、通称長崎ハルマ）でも保険に関する用語が登場しており、“Verzekeren”（「保障する」の意味。名詞の“Verzekering”は「保険」）は、「物ヲ運送スルニ世話料ヲ取りテ海上ノ難ヲ請合フ」と訳されている<sup>13</sup>。

蘭学の時代に、わが国にはじめて保険の概念をもたらした国はオランダであったわけである。

今後も、オランダの保険事情について、引き続き注視したい。

#### 【お知らせ】

2012 年 4 月から、「[保険・年金フォーカス](#)」という名称で、わが国や諸外国の保険・年金に関するわかりやすい情報を発信してきましたが、2015 年 4 月からは「[基礎研レター](#)」として発信します。

毎週火曜日の情報発信は同様ですので、引き続きご愛読いただきますよう、お願い申し上げます。

<sup>12</sup> 福沢諭吉『西洋旅案内 巻之下』、近代デジタルライブラリー、国立国会図書館ホームページ（1873 年 5 月に慶応義塾出版局より第二版として出版されたもの）。

<sup>13</sup> 『明治大正保険資料』第 1 巻 1～2 ページ、生命保険会社協会、1934 年 8 月、田村祐一郎「オランダ人と保険—保険の来航（1）」『文研論集』、生命保険文化研究所、1997 年 12 月。